

CIPA

中国インテリアプランナー協会

Chugoku Interior Planner's Association

<http://cipa21.com/>

2004 vol.09
通信

Communication

〒731-5135

広島市佐伯区海老園1-13-7

(有)エルイーオー設計室 内

TEL: 082-923-2132

FAX: 082-922-0018

Email: cipa@cipa21.com



法隆寺 夢殿 / NARA

会長のつぶやき

ある夏のこと、白い麻の上着に異変を見た。その内ポケットで、万年筆のねじ込み式のキャップがはずれ、ブルー・ブラックのインクが上着に吸い尽くされていた。この万年筆（モンブラン）を見限り、ねじ込み式ではないウォーターマン（1884年にアメリカ人のルイス・エジソン・ウォーターマンが発明）を手に入れた。念のために上着はブルー・ブラック色の麻に替えた。

谷崎潤一郎が1933年頃、「陰翳礼讃」の中で次ぎのように語っている。「仮に万年筆と云うものを昔の日本人か支那人が考案したとしたならば、必ず穂先きをペンにしないで毛筆にしたであろう。…我等の思想や文学さえも或はこうまで西洋を模倣せずもっと独創的な新天地へ突き進んでいたかも知れない」と。谷崎の発想は、遅ればせながら筆ペンとなって実現された。私は万年筆にも、筆ペンにも未練を残す。でも世の中はキーボード。ビル・ゲイツが長者番付に君臨して10年にもなるという。

。（29 FEB. 2004 日高卓三）

Interview

「とき」のひと 第3回 松場 登美

*このコーナーでは、様々な分野で活動されている方々に登場していただいております。

今回は、(株)石見銀山生活文化研究所の松場登美さんにお話を伺いました。

私は全く今まで本格的にインテリアの勉強もデザインの勉強もしておりません。でもだからこそ、何の概念も持たないでできるのかもしれないね。ブラハウスの玄関を見ていただきましたか？あの敷き板に使ってあるものは近くの小学校を解体する時にいただいた、下駄箱の所にあった踏み板なのです。昔の白いペンキが落ちた跡も、いい雰囲気が出てくるでしょう？ 何千人、何万人と言った子供達がこの板を毎日踏んでいたのかと思うと、とても楽しくなります。

ある日、中庭に面したガラスが壊れたのです。それを近所でステンドグラスを勉強されていた主婦の方をお願いして、壊れた所に葉っぱの形のステンドに仕上げてもらいました。そんな風に壊れたものをすぐ捨ててしまうのではなく、これをどうしたらもっとステキに再生できるかしら？といつも考えるのです。

こうして廃屋になったような古い家屋を直しては住んでいます、決して骨董趣味でもなんでもありません。ぜんぶ古いものばかりでコーディネートすると、どうしても新しい感覚の空間にはなりません。そのバランスが難しいのです。ある時、和紙でできたステキな暖簾があったので、この家(旧阿部家で、今はゲストの為の家になっている)の奥の間にどうかしら？と友人に相談した事があるのです。するとその友人は「似合うかどうか、それは私たちが決めるのではないのよ。家がちゃんと決めてくれるから掛けてごらんさい。」と言われたのです。

私は「楽しいうらり」と言っているのですが、ざりげない所でちょっとした事をして遊んでいます。通った人が、これを発見してどんな反応をしてくれるかしら？と想像するととても楽しいのです。

ある時、この町でも一番質素な家が、住む人もなく売りに出されました。柱も細く、殆ど家としては価値のないような家です。その家を昔あったような雰囲気の壁に仕上げ、私はそこを「ろうそくの家」と名付けました。そこには全く電気を通さなかったのです。ここで私は囲炉裏に炭を起こし、和蠟燭の火だけで大切なお客様をお迎えします。この家に入られた時は、最初は真っ暗なものですからとても不安がられます。でも段々目が慣れてくると、ここでもしか味わえない不思議な世界が開けてくるのです。その時、このとても質素な家がどこよりも贅沢な空間になるのです。ここにいると、段々五感が研ぎ澄まされてくるのですよ。今はご飯ひとつ炊くにも、スイッチひとつで炊けてしまいます。でも私はちゃんと薪でご飯を炊き、薪でお風呂を沸かしてお客様をお持てなします。一番は薪で炊いたご飯が美味しいって事もあるのですが、……。ここにステンドグラスの作家の方が来られ、是非自分の作品をこの空間に作りたいと言われ、最初、ステンドグラスがこの空間に合うのだろうかかと心配したのですが、今、そのガラスの積層した作品の後ろに蠟燭を灯すとまるで海の中から地上を見るとこんな感じかしら？って思う程ステキなものになりました。ご覧になりましたか？

ここには宝物が沢山あります。毎日がとても楽しいですね。この町に沢山の若い人達が来てくださる事を願っています。私はいつまでもここにいて、来られる人のお話を楽しみにしています。

みんなが集まった時、登美さんは大きなやかんに麦茶を沸かし、水で冷やし、ガラスのピッチャーやステキな土瓶に氷を入れて、自ら我々のおもてなしをしてくださいました。台所の床や作業台等は耐火レンガ(廃材の頂き物)で作られ、この耐火煉瓦の風合いが好きなんですよね。汚れてもステキでしょ！ と、にこやかに微笑まれていました。訪れた人に本当に生きる為に、今の自分にとって大切なものを思いださせてくれるまるで現代の桃源郷のような場所。町がどんどん大きな息吹を持って、我々に何が大切かを語りかけてくれる・・・、そんな思いがしました。



●Profile

松場 登美 まつば とみ

全国に有名百貨店を始め数十カ所のショップを持ち、雑貨「ブラハウス」、洋服のメーカー「群言堂」を夫婦二人三脚で立ち上げる。あくまでも石見銀山にこだわり会社が大きくなった今でも本社を大都市に移転せず、地元銀山から発信を続けている。

(株)石見銀山生活文化研究所

address: 島根県大田市大森町駒の足

TEL: 0854-89-0077

E-mail: info@burahouse.co.jp

HP: <http://www.burahouse.co.jp/>

Report

石見の国 銀の道ツアーに参加して

島根県大田市大森町は、南北に続く1キロの町並み、雑木林と瓦葺きの民家、そして寺院が散在し、かつて日本のどこにでも見られた、昔話のようなのどかな風景が濃く残っていました。

川に沿った銀の山道へには、白い水引草、赤のたでの花がひっそりと咲き、戦国時代から村の人々をなごませていたのでしょう。点々と掘られた石見銀山の坑道の跡は、人々の汗と吐息が聞こえそうで、わびしさ、せつなさ思わず手をあわせたいようなのでした。

そんな朱瓦に土壁の町に足を一歩踏み入れて、何か現代人の忘れ物が見つかりそうな、又、人と人の暮らしの原点が見つかりそうに思えたのは、私だけではなかったと思います。そして街に住む私達が、過ぎ去った過去を思い、昔はいい、自然はいいと今を嘆いている時に、一步一步、町並みと自然保存のために、地域住民と一緒に、再生を実現させている市の住宅課の方々、生活文化研究所のオーナーの方、人生の課題として取り組んでおられる生き方にとても感銘を受けました。私達はもともと製図版(今はCAD?)をはなれ、土、石、木、草花を手にし、山のにおいをかぎ、海の風を感じ、五感をのびのびと刺激しあいがらもの創りをしないとけないと思いました。

住まいの再生というのは人の歴史や記憶の再生であり、こわすことではなく、住み続けることで、先祖をたいせつに、人間をたいせつに、自然を大切にしていくことであることをあらためて強く感じました。

いま一度、重要文化財熊谷家住宅改修工事が完成した折に、もう少し町の事を勉強しておとづれてみたいと思います。そして私は町の再生などという大きなことには立ち向かえないけれど、自分の生活の中で、季節季節の折には、先祖が大切に使って感じていた物に触れ、歩いていた事の記憶をたどり、新しい生活の発見をしながら、これからの住まいづくりを楽しんでいこうと思います。

ちなみに我が家は、築80余年!...負けず劣らず古民家です。

U建築設計事務所
上田 悦子



中村好文 講演会

良いデザインとは、使い手の使いやすさを追求したものではないだろうか。また、その過程で必要でないものが除かれ美しいものが出来ていくのではないだろうか。

その考えは、住宅、家具、皿と、人が日常を通じて使う全てのものに当てはまる。そして、私たちは日常の暮らしをデザインしてゆくのだと、改めて知ることができました。

広島工業大学 環境デザイン学科
槌田 瞳

講演会後の飲み会では中村先生自ら気さくに話しかけてくださったり、酒を注ぎあったりとても楽しい時間をすごすことができました。

その中で中村先生の話す姿や、食べる姿や、飲む姿を見て「この人は生き方からデザインを行っているのだなあ」と実感いたしました。

講演会や飲み会など、中村先生と接する時間の中で様々なデザインを教えていただいた貴重な体験でした。

広島工業大学 環境デザイン学科
植田 開



Plannig

高須の家 アトリエ平田

「高須の家」は広島市の中心部より5kmほど西に位置し、都心に近い割に静かで良好な住宅地に立地しています。南に数・ゆけば海があり背後にはなだらかな山があるという、瀬戸内の典型的な温暖な場所なので、通風を十分考慮した開放的な住宅にしたいと考えました。しかし、昨今の犯罪件数の増加により、解放性と安全性の相反する課題にいつも頭を悩まされます。また、隣接する敷地が大きな空き地（現在は貸駐車場）なので、近い将来に集合住宅が建つ可能性が高いことから、コートハウス形式を採用することにしました。

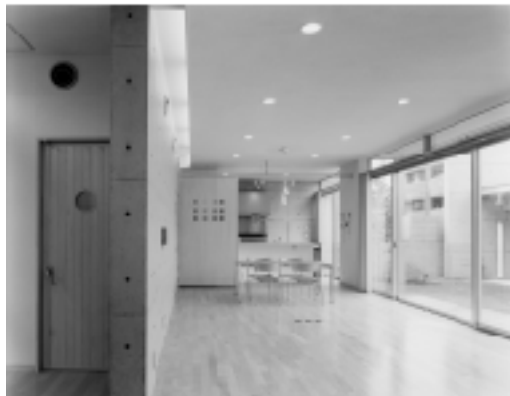
道路側の1階は玄関・ゲストルーム・車庫、2階はルーフバルコニーを、中庭を挟んで敷地の奥側の1階はLDK、2階は寝室を配置しています。この構成により、外部からの視線を遮りながら、中庭に対して大きな開口部を設けることが可能となりました。

クライアントは夫婦＋子供二人の4人家族で音楽好きの一家です。1階のリビングルームは天井を高めににとり、大きな気積の空間することで、家族で音楽を楽しめる場所にしています。隣接しているスタジオは吹奏楽器のレッスンのためのスペースで防音が施されています。内装は中庭との一体感を保ちながら、コンクリート打ち放しと対比させるためなるべく自然素材を用いました。1階の床はフローリング、壁・天井は珪藻土塗り、2階の床はコルクタイル、壁・天井は珪藻土壁紙とシンプルにまとめました。「音楽を楽しむホームパーティー」そんな情景を描きながら、豊かな空間になるようデザインしました。

平田 欽也

「高須の家」

所在地	： 広島市西区高須
敷地面積	： 298.29m ²
建築面積	： 162.22m ²
延べ面積	： 226.26m ²
構造規模	： RC壁式構造、2階建
設計・監理	： アトリエ平田
施工	： 共立建設(株)中国支店



堺町の家 エルイーオー設計室

広島市中心に位置する堺町（且つて本川町、境町、十日市町、左官町と沢山の問屋が軒を連ねていた）の築13年目の三階建てビルの三階部分全面リニューアル工事で、夫婦と中学生（女）、高校生（男）の四人家族の為に住宅である。小規模のビルが建ち並ぶこの地域は、且つての喧噪からは想像できないくらい夜になると静かな地域である。街の中心部からも至近距離にあり、平和公園も近く、意外に生活するには便利な所ですが、反面防犯に関しては慎重に計画し、対処しなければなりませんでした。

計画のポイントは、ダイニング・キッチンを中心に家族、仲間が集まれる空間。材質は自然素材を生かし、造り付けの家具等はシンプルなデザインで構成する。外からの遮音、断熱（すべての開口部はペアガラス仕様）し、特に空調に関しては、温水、冷水を特殊なパネルを通すことでファンを回さず、全部屋の空気を汚さず、自然対流のみで冷暖房するシステムを採用し、室内換気は一種換気による構成としています。室内の配置は玄関からホールを抜けると正面に約2.7×5.0のパティオ（中庭）があり、パティオを中心にリビング・ダイニング、それぞれの子供部屋が配置してます。主寝室・クローゼット、書斎、書庫は北側にありますが、屋上からのトップライトにより明るく静かな空間を創りだしてます。自慢のキッチンはL型のカウンター（既製の商品をカスタマイズしコストと機能性とデザインを考慮した）に2口の電気調理器、ハイカロリー1口ガス、電気式グリル、そして電気式のオープンをスマートに配し、料理好きのご主人の腕を振る姿が楽しみの住宅です。ビルの中と言う限られたスペースの中でこのたびのリニューアルは、上手く仕上がったケースだと思っています。

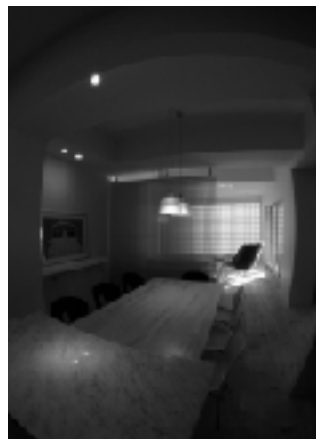
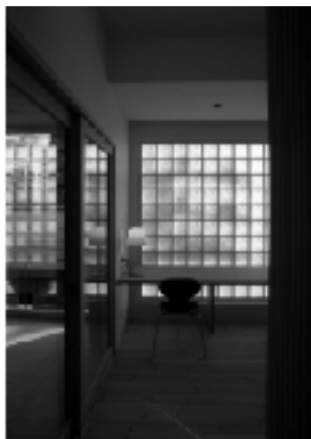
中川 裕二

「堺町の家」

延面積：約148m²（44.8坪）、但しパティオ（中庭）13.5148m²（4.08坪）を含む

■主な仕上げ

天井：ベンジャミンムーア仕上げ、レッドシダー張り自然塗料染色仕上げ
壁：ベンジャミンムーア仕上げ、ガラスモザイク、タイル仕上げ
床：ボルドーパイン21t自然塗料染色仕上げ、タイル仕上げ
別注家具及び建具は全てバーチ材（柃目）、自然塗料染色の上ワックス仕上げ



Plannig

古民家のリフォーム2軒

私達の暮らしている中国地方のご身近な街や村にも、築60年や70年の年月を経て住み続けられている民家は結構あるものです。それらの民家の多くは、現代的な快適生活を営むことはむずかしい様です。そこには共通の暗い・寒い・段差が多くて、足腰の弱くなった老人にはとても不便と言う、問題をかかえています。しかし、構造材は地元で育った地松、大工さんの腕前も良かった。それに何れも柱1本・梁1本に愛着がある。解体するには、もったいない。どうにかならないものだろうか？という願望も共通のものがあります。

今回、このような問題を解決すべく、2軒のリフォームに挑戦してみました。古民家再生という大規模なものではありませんが、かと言ってその辺の大工さんや工務店がバタバタとプリント合板を張って改装終わりと言う様な、中途半端なものでもありません。

インテリア・プランナーとして古いものの中に新しい意味での創造性を、最大限に発揮できないものかと強い気持ちで取り組みました。この様な仕事を通して、なるべく自然素材で、また本物を使う事により、より長く住めて再生可能な、そして住む人の健康にも環境にもやさしい家造りが1軒でも多く出来ればと思います。これらの民家を壊して新築すれば、柱・梁その他の自然素材もすべてゴミでしかありませんから……。

U建築設計事務所 上田 幸正



JIPA全国大会2003

第5回札幌大会の様様をCIPAの敏腕記者になったつもりでスクープしてみたいと思います。来るべき中国大会の重責を理解して頂くためにも報告しておきたいと思います。2003年7月5日～6日に開催された札幌大会の成功の秘訣を通し番号を付けて記録してみます。まず北海道で(1) 快適な季節の選定をされたこと。次に吉本真知子北海道IP会長が(2) マドンナ的存在として君臨されたこと。前会長の杉山氏が(3) 影の手配師として全体を采配されたことなどから始まっているように見受けられます。

全国大会の必須イベントとして前日の5日に行われました(4) 北海道らしいエクスカーションは下記のように充実したものが企画されていました。A.メモリアルゴルフ大会、B.札幌芸術の森・野外美術館散策コース、C.札幌観光コース、D.小樽散策コースなど。ただし、今日のように旅行情報の周知と個別化の時代にあつてはエクスカーションへの参加者は年々少なくなっているようです。私は7日に札幌ドーム、渡辺淳一文学館、JRタワー、大通公園TV塔などを見学しました。札幌ドームは自然の芝グラウンドが浮上し、回転し、屋外と屋内を往来する世界初のアイデアがみごとに実現され、周囲の公園、点在するアートモニュメントなどと一体に環境化され、原田司さんらしい完成度の高い設計となっていました。渡辺淳一文学館の方は同じ安藤忠雄さんの手になる司馬遼太郎記念館にはおおよばないように見ました。

(5)「豊平館」で開催された交流会。中島公園にあるこの国指定重要文化財へのお客さま第1号は明治天皇で、この時開拓使麦酒醸造所(現サッポロビール)よりビール1ダースが届けられたとか。明治政府の近代化への意気込みと開拓使の夢、それらを形にする職人たちの心意気が随所に刻まれている。シャンデリアは東京の官営工場にわざわざ造らせ、船で運ばせたものであり、カーテンは西洋で機織りの技術を学んできたばかりの京都西陣の職人に織らせたものだったそうです。

交流会後の(6)懇切丁寧なナイトツアーも3案企画されていました。

A.GLOVE WITH AQUA STYLE、B.鴨川サロン、C.炭焼レストラン・ノアの方舟など。

次の日に全国大会の会場として、北海道浅井学園大学北方圏学術情報センターをゲットされたことも成功の要であったと思われます。そこで(7) 吹き抜けのある明るい玄関ホールにて大会の受付登録、パネル作品展示、昼食時のジャズ研による演奏、(8) 代議員会、総会の開かれる手頃な会議室。ステージとゆったりした客席と完備したオーディオ機器のある(9) オーディトリウムにおける記念講演会。講演会に先立ち、浅井学園学生による「よさこいソーラン」の上演も粋なイベントでありました。講演会の上遠野徹(かとのてつ)氏による「風の大陸から」。北海道らしい厳しくも美しい大自然の航空写真を見ながら人間のいとなみとしての建築について熱く語られました。昼から(10) 記念フォーラム。「北のインテリア」と題して、パネルは以下の方々。北海道日建設計取締役社長の吉田宏氏、日建スペースデザイン代表取締役の浦一也氏、ゆとり工房主宰の飯田久恵氏、ユタカ商会代表取締役の本郷利武氏。フォーラムは休憩をはさんで2部に分かれていましたが、私は時間的に2部を欠席しました。

(11) 手造り的で見ごたえのあるプログラムの作成。

2日間にわたる全国大会のイベントを提案され、推敲され、まとめあげられ、それらを表現されるにあたっても、多くのスケッチとすばらしいキャッチコピーによって作成されたプログラムは北海道IP協会の実力の高さの表れとして非常に好評でありました。

1 MAR 2004 日高 卓三



▲浅井学園ロビー

mini Lecture

「ディスプレイ業界が求める人材」

講師: 株式会社フジヤ広島支店
支店長 三原 剛氏

「ディスプレイとは?」と問われると、なかなか答えが見つかりにくいものです。「展示、陳列、見せ物、飾り物」などと言われると納得はいきませんが、何となく違うような、他に表現があるような気がします。三原 剛 氏は「空間を使って相手に伝えるもの(=演出)」と言われました。ただ単に展示するだけでもディスプレイと言えるでしょうが、本来ならば、ディスプレイのそれに対して対象とする人が存在して、その人に伝える、訴える力が必要で、それが成り立って初めてディスプレイとなるのだと私は思いました。

また、「伝えよう」とする意思のあるモノが表面的な表現をすると、それもまたディスプレイと言えます。人はもちろん、動物や虫だってディスプレイになることも可能なのです。何も人間の作った、表現しようとしたモノのみがディスプレイではなく、自己表現でも伝えようとするモノは全てディスプレイと言えるだろうと思います。

一般的に「ディスプレイ」と聞くと、街のショーウィンドウなどを想像しますが、これからは「都市計画」まで、つまり、百貨店・ショッピングセンター・飲食店・博物館・テーマパーク・オフィス・展示会などといった、あらゆる環境をつくる仕事が「ディスプレイ業」と拡大発展しています。街や都市、住宅に及ぶ目に見えるモノがディスプレイになっているのです。見渡す限りにディスプレイが存在すると言っても過言ではないでしょう。

「ディスプレイの基本構造と計画のポイント」として「WHY(目的)」「WHO(送り手)」「WHOM(受け手)」「WHAT(内容)」「WHEN(時期)」「WHERE(場所)」「HOW TO(手法)」「HOW MUCH(経費)」などがあります。これはディスプレイ業界ではもちろん、設計やデザインなどにおいても必要な要素だと感じました。

不景気な現代、日本の様々な企業では競争が起きています。ディスプレイは、一目でそれだと分かる力や人を引き寄せる力が必要です。目的なく買い物をする際、ショーウィンドウやファサード、インテリアを見て、店舗に入る事が多いと思います。それはつまり、「ディスプレイ」の効果です。価格や質で競争するのも良いですが、ディスプレイで競争するといった方法もあるのではないのでしょうか。

中国インテリアプランナー協会 学生会員

広島工業大学 環境学部 環境デザイン学科 打越 加奈美

Topics

小屋が教えてくれた

風によって旅する僕には、小屋に泊まる機会が多い。

ジャングルの高床式の小屋、アンデス・チチカカ湖の葦の小屋、砂漠の遊牧民の移動式の小屋、ネパールの標高5,500mにある山小屋。

その中でも、南インドの砂浜に建てられた小屋では人生観が変わるほどの衝撃があった。

砂浜で出会った漁師のおじさんに誘われ、家を訪れた。彼の家はヤシの葉っぱを編んで出来ている。中に入ると編んだ葉っぱの隙間から外が透けて見える。床は土、その上にゴザを敷いてランプをともして家族五人が住んでいた。

カレーをご馳走してくれたのだが、お皿の代わりに青々としたもぎたてのパナナの葉っぱが目の前に置かれた。その上にご飯を盛ってカレーをかけて右手で食べる。

歯のかけたお父さんと、黄色いサリーを着たおかあさんと、ちっちゃい子供がニコニコして、僕がカレーを不器用に右手で食べるのを見ている。

もちろん言葉なんて通じない。

言葉は。

そのとき決定的に感じた。

豪華な家でも食事でもないし、学歴なんて言葉もないこの場所で、心地よい時間と空間が僕の周りをゆっくりとながれているのを。

「一体この心地よさはどこから来るのだろうか?」

そのシンプルな疑問が頭に浮かんだとき僕の価値観の「殻」にひびがはいった。

「便利なものがあれば、お金があれば、地位が上がれば幸せになれる。」と教えられてきた殻が。それから僕は時間をさかのぼる旅を始めた。

心地よい時間と空間の始まりを探して。

2004年3月14日、広島の太田川で葦で作った小屋が完成した。

あのヤシの葉っぱの家になることを祈りつつ。

南インドの旅から、ちょうど15年が経っていた。

カムナ葦船プロジェクト代表

石川 仁

「カムナ葦船プロジェクト」の詳細は、<http://kamuna.net/> をご覧ください。



新賛助会員紹介

株式会社トム・ソーヤジャパン

現在、「すまいづくりのコンビニ」をテーマに実験モデル店舗（廿日市市串戸）を展開して、事業モデルをチェックしています。事業コンセプトは便利で手軽に利用できる住まいづくりサービスの提供を通して、人々の豊かさづくりに貢献すること。サブコンセプトは、『住み替え・新築からメンテナンス・リフォームまでのトータルサービス』をワンストップサービスと呼び、これを1ヶ所で提供すること。事業内容（4部門）として

(1) 不動産部門

月刊誌「ペット倶楽部」と共同で、ペット共生住宅（賃貸・分譲）づくりから始めています。

(2) 商品販売・リース部門

インテリア・エクステリア分野にまたがる「おしゃれなセレクト商品」を提供します。ぜひ、商品情報をお知らせください。

(3) 設計・工事部門

(4) セカンドライフ部門

・ログハウスの輸入販売

・家庭農園 ・セカンドライフ用地の賃貸

営業店舗のイメージは女性でも気軽の利用できる少しおしゃれなコンビニ型店舗とし、面積はコンビニサイズ。30から40坪。

トムソーヤらしく、夏には「ツリーハウス」を吉和に作る計画です。

株式会社フジタ建材「建材を振り返って見ると」

私の爺さんは鋳物の型職人で、昭和の初めの頃その型に鉄の代わりにセメントを流しこんで五右衛門風呂の底敷きや外の流しなどを作っていました。それ以来、家業として建材屋を営んでいます。その時代その時代が必要とされているものが変化しています。随分、扱っているものが変わってきました。私の子供の頃は赤土を足で踏んでいる職人さん達を見ることがありました。内装は土壁や綿壁が主流でした。毎日、左官さん達がうちの店に壁材を買いに来ていました。その後、プラスターボードとビニールクロスが登場して今や90数%の家の内装仕上げはビニールクロスです。左官さん達の仕事がどんどん少なくなっていきました。床は合板になって、気が付いたら接着剤とビニールの家になってしまいました。

最近になってまた塗り壁が見直されて床材も無垢になりつつありますがまだまだ大半は合板とビニールクロスの家です。あるメーカーは漆喰や珪藻土までわざわざシートにして接着剤で貼り付けさせています。建材はどこかの大メーカーが開発したものを買って来てそれを組み合わせればそれで終わりと言う安易なやり方で良いのでしょうか？ 昔は、職人さんが材料を吟味して配合まで考えて建材を自分たちで工夫して作っていました。広島の世界平和記念聖堂は原爆の焼け野原の中、現場でセメントレンガを作って出来上がったと聞いています。

もう一度、物造りの原点に戻らなくてはと思っています。昔の人達がやって来たことをもう一度見直すのが、これからの新しい方向かもしれません。デザインをする人や施工する人と一緒になって新しい建材をつくれたらいいなと思っています。

西武株式会社

この度賛助会員とお仲間入りをさせて頂きました、「西武株式会社」と申します。会員の皆様の中にはご存知の方もいらっしゃると思いますが、改めてご挨拶をさせて頂きます。当社はオリジナル商品の製造・販売・施工させて頂いております。

セコーは新素材の開発からデザイン・クリエイト、そして製造・販売・施工まで一貫したトータルシステムで、あらゆる空間創造に対応した商品とサービスを提供致しております。当社オリジナル壁紙「ノイエローヴ」は自然素材を原料とした壁紙シリーズです。織物壁紙・不織布壁紙・珪藻土壁紙などを収録し、素材はレーヨン、麻、綿、パルプからできています。主な特徴としましては、空気の汚れの軽減・優れた吸放質性です。さらに燃焼時・火災時にはダイオキシンや有害物質ガスが発生致しません。そして織物ならではの柔軟性があり、地震時などのクラックの緩和効果に優れています。

ぬくもりあふれる自然素材が、どんなインテリアにも合います。下地に多少の凸凹があっても不陸をカバーし美しく仕上がります。現在数多くのエコクロス商品が販売されています。当社「ノイエローヴ」は自然素材にこだわり、本物の素材が作り出す表情や風合い、そして優れた機能性、環境に配慮した本物の自然派壁紙だと思います。

当社オリジナル商品は壁紙以外にも国産カーテン・輸入カーテン・床材・エクステリア材等多数のアイテムを取り揃えております。お気軽にお声掛けて頂ければと思います。今後共、宜しくお願い致します。

アイカ工業株式会社（アイカマーレスインテリアシリーズ）

ドア・収納・腰壁などトータルコーディネートできる「アイカマーレスインテリアシリーズ」。

COLOER-インテリアの印象を大きく左右する色。基本カラーは7色。メラフュージョンコンビシリーズ・マーレスチョイスシリーズのアクセントカラーにはメラミン化粧板を採用し、様々な組合せでバリエーション自由自在。

FUNCTION-最大の特徴は、優れた耐久性です。JAS FWタイプ 耐磨耗性試験700回をクリアし、キズがつかないことを実証。耐薬品性でも優れた機能を発揮し、シンナーやアセトンを用いても変質しません。さらに、油性ペンの汚れを拭き取る耐汚染試験や、過酷なテーブ剥離試験もみごとにクリア。

ECOLOGY-改正建築基準法におけるホルムアルデヒド発散区分において最高等級のF☆☆☆☆を取得していますので、安心してご使用頂けます。さらに、床段差を解消した沓摺と敷居を採用、レバーハンドル・把手もバリアフリー専用のものを採用しています。健康・安全・環境に配慮したシリーズです。

アイカマーレスシリーズなら、自分らしい暮らし、描くイメージを表現することが可能です。詳しくは、アイカ工業（株）広島支店【Tel:082-254-1311(代)】までお問合せ下さい。

IPEC21-2004

4th INTERIOR PRO EX CO

www.ipec21.jp

2004年10/13 [水] - 15 [金]
東京ビックサイト〈西ホール〉

インテリアからの発信

ひと 環境 デザイン

平成15年度 中国インテリアプランナー協会活動記録

2003.	05.17	『愛媛の民家・ロマンチック紀行』ツアー
	05.24	平成15年度総会
	06.28	第1回ミニレクチャー『ディスプレイ業界が求める人材』
	09.14	『石見の国 銀の道』ツアー
	10.22～24	IPEC21
	11.11	第2回ミニレクチャー『イリア・丹藤 翠の仕事』
2004.	01.31	中村好文講演会『暮らしの中で学ぶデザイン』
	02.07	第3回ミニレクチャー『空間のDNAを継承する』

〈平成16年度総会のご案内〉

- 5月29日(土) 13:30～15:00
- 広島県情報プラザ2F第3研修室
- 平成15年度活動報告及び会計報告
- 平成16年度活動計画及び予算案の承認
- その他

平成16年度総会を上記の要領で開催いたします。
会員の皆様に多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

■新会員紹介

学生会員： 城土 健作 (広島工業大学 環境デザイン学科)
野村 竜也 (広島工業大学 環境デザイン学科)
増村 嘉大 (広島工業大学 環境デザイン学科)
檜垣 由紀子 (広島工業大学 環境デザイン学科)
梶西 則吉 (広島工業大学 環境デザイン学科)

賛助会員： 西武株式会社広島営業所 (広島市中区舟入本町18-3)
アイカ工業(株)設計推進部 (広島市南区霞2-9-10)

〈事務局より〉

- ・平成15年度会費未納入の方は、早急に納入下さいますようお願いいたします。
- ・住所変更、事務所移転などありましたらお知らせください。又、近況報告も随時お寄せください。
- ・新会員募集
当協会では新規ご入会の会員を募集いたしております。インテリアプランナー資格者の方ご紹介くださいますようお願いいたします。

〈編集後記〉

普通、時間の流れを考えると、一本の道程のように過去・現在・未来を考えがちですが、実は過去も未来も、同時に今に存在しているのではないかと思うことがあります。今、この瞬間に、過去の私も、現在の私も、未来の私もまったくの横並びに存在して、一斉に動いて、感じて、生きている。と、リアルに感じるのです…。それは奇妙な感じです。そう感じるときは、いわば過去も未来もなく、今、しかないのです。過去も未来もない永遠の今に生きること。そう考えると何やら体の奥から、エネルギーが湧いてくるような感じさするのです。今が大事。と、春の匂いを感じながら、今さらながら思うこの頃です。

バルセロナからの寄稿 「オブラ(現場)」

早いものでバルセロナ滞在中も1年半。昨年10月にオフィスBCQ Arquitectesに替わりまし。ランドスケープ・プロジェクトも数多く手掛けています。

このオフィスの醍醐味はオブラ(現場)を大切にする点です。現在進行中のプロジェクトで最大のものが、ここバルセロナで今年4月から5ヵ月間、開催されるエキスポForum Barcelona 2004の商業施設です。エキスポの総敷地面積は30ha、ヨーロッパ、スペインの建築家(ヘルツォーグ&デムロン、FOA、マテオ、ラペナ&トレス、アバロス&エレロスetc.)が各施設の設計を担当しています。我々の商業施設の敷地面積は28,000m²、ランドスケープ部分を含めると75,000m²と大きなプロジェクトです。その規模の大きさ、各建築家の個性がぶつかり合って、オブラが放つエネルギーには行く度に圧倒され、魅了されます。

発想から図面、図面から現場、そして完成とその長いプロセスはつながっているようでまったく別の世界で、つなげるのが一苦労だったり、別の世界だとたかをくくっていると、オフィスの上司が云うように、「オブラがいいと完成品もいい。オブラが悪いと仕上がりが悪い」と、痛い目にあうことがあります。

オブラを経験しないでプロとは言えない。私の担当するランドスケープ・プロジェクトのオブラはまだ少し先。早く早くと、自分をせかしたくなる今日この頃です。

2004年3月

ランドスケープ・アーキテクト
飯富 美香



〈(財)建築技術教育普及センターより〉

平成15年度 インテリアプランナー試験の結果

	一次試験(学科)	二次試験(設計製図)
受験者数	320人	381人
合格者数	199人	116人
合格率	62.2%	30.4%
最終合格率	23.8%	

平成15年度 中国インテリアプランナー協会会員数

正会員：92名 準会員：0名 学生会員：17名 賛助会員：14社
平成16年度 3月1日現在

発行者：中国インテリアプランナー協会

〒731-5135 広島市佐伯区海老園1-13-7

TEL. 082-923-2132 FAX. 082-922-0018

HP: <http://cipa21.com/> E-mail: cipa@cipa21.com

発行日：平成16年4月1日

編集：日高卓三、中川裕二、中川圭子、喜多素子